

平成30年度 星が丘中学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す生徒像含む）

- ① 健康で気力のある生徒を育成する。
- ② 学力豊かで創造力のある生徒を育成する。
- ③ 勤労を尊び責任感のある生徒を育成する。
- ④ 国際感覚に秀で思いやりのある生徒を育成する。

【目指す生徒像】

- | | |
|-----------------|------------------|
| ① 気力あふれるたくましい生徒 | ② 自ら学び考える生徒 |
| ③ 進んで仕事をする生徒 | ④ 豊かな心と思いやりのある生徒 |

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

21世紀の知識基盤社会の時代を生きる人間を育てるに当たり、生徒の自己教育力を高める創造的な学校経営の推進を柱として、生徒の確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和を重視する「生きる力」を育み、生徒が自分の未来を切り拓く力を育てる教育を実践する。

3 学校経営の方針（中期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

（1）確かな学力の定着

・授業時数の確保と学習指導要領に基づく授業の展開と工夫、個に応じた指導の中で、基礎的・基本的な知識・技能等の育成や思考力・判断力・表現力等の育成、さらには指導と評価の一体化を推進し、確かな学力の定着を図り、「わかる授業」の推進に努める。

（2）心の教育の推進

○読書活動、あいさつ運動、心に響く道德教育、国際理解教育、福祉教育等の充実を図り、教育活動全体をとおして、思いやりにあふれた心の教育を推進する。

（3）生徒指導の充実

・一人一人の家庭的な背景を踏まえながら、生徒とのコミュニケーションを重視し、信頼関係の構築に努める。

○生徒の自律を促すための「育てる生徒指導」（自己教育力・自己肯定感の育成）の推進を図る。

○解決すべきに対して家庭や他機関との連携を図りながら組織的に取り組み、解決・解消に努める。

（4）健康・体力の向上

○食育の充実と健康的な生活を送るための指導の充実を図る。

・新体力テストの結果を活用し、進んで運動に取り組む態度の育成と体力の向上を図る。

（5）特別支援教育と教育相談の充実

・生徒一人一人のニーズに対応した教育支援の充実が図れるよう、校内特別支援委員会を中心に組織的に取り組む。

・不登校の防止や解消、生徒一人一人の悩みの解消を図り、明るい学校生活を実現するために、教育相談の充実を図る。

（6）家庭・地域社会との連携と開かれた学校づくりの推進

○地域の教育力を生かし、家庭・地域社会との連携と開かれた学校づくりに努めるとともに、地域に信頼される学校づくりを推進する。

（7）教職員の使命と資質の向上

・時代や生徒・保護者のニーズに応えるため、教職員としての使命に徹し、協働体制のもとに各自の特性の発揮と資質の向上に努める。同時に業務の適正化を図り、健康安全管理を推進する。

【星が丘地域学校園教育ビジョン】 「未来を見つめ、学び続ける力の育成」

～星が丘地域学校園の学校文化を築くことを通して～

4 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

（1）学校運営

・生徒の自己教育力を高める、創造的な学校経営の推進 — 生徒の自己肯定感を助長するための指導の工夫 —

（2）学習指導

○意欲的に学習に取り組む学力豊かな生徒の育成

（3）生徒指導

○家庭・地域との連携を深め、心豊かで思いやりのある生徒の育成

○生徒の良さを積極的に見出し、称賛することを通して、自己肯定感や誇りを持てる生徒の育成

（4）健康（体力・保健・食・安全）（元気アップ教育に係る取組を含む）

○自己の健康・体力の状況を的確に理解し、進んで健康・体力の向上に励むたくましい生徒の育成

5 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
学校運営の状況	A 1 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】肯定的回答80%	生徒会活動の充実を図り、特に学校行事等では、生徒の自発的・自治的活動を積極的に取り入れ、成就感を味わわせる。	B	【達成状況】教職員・保護者・地域住民で90%を超える高評価であった。生徒も昨年度から微増の88.7%と高評価であった。 【次年度の方針】生徒会活動や学校行事を軸に、明るく活気に満ちた雰囲気作りに努める。また、内容の精選を図る。
	A 2 教職員は、組織の一員として熱心に教育に当たっている。 【数値指標】肯定的回答80%	教職員一人一人が学年、教科、校務分掌等職員間で率直にアドバイスし合える雰囲気作りに努め、互いの授業力や同僚性を高め合う職員室にする。	B	【達成状況】全ての回答者で85%を超えた。保護者・地域住民・児童生徒ともに昨年度からの肯定的な割合が向上している。日頃の教職員のより良い指導の成果が表れていると思われる。 【次年度の方針】自己教育力を高める学習指導や生徒指導を共有することで、教職員一人一人が互いの授業力や指導力を高め合うようにする。
	A 3 生徒は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている。 【数値指標】肯定的回答80%	授業・日常生活の決まりやマナーの状況について全教職員で情報を共有し、課題を明確にした上で休み時間等の巡視を行う。その際、善い行いは称賛し、きまりやマナーを守ろうとする意欲を高める。	B	【達成状況】教職員の肯定的回答が91.1%、生徒の肯定的回答が85.0%とやや開きがあるものの、前年度を若干上回る結果となっている。ほとんどの生徒が決まりやマナーを守って生活していると考えてよいと思われる。 【次年度の方針】 ・時間を意識して行動することや、決まりやマナーを守った行動ができるよう生徒会生活委員会の協力を得て、生徒自身が主体的に決まりを守っていくような指導に努めていく。 ・交通マナーについては、全体朝会や学年集会をはじめ、学級活動などを通して重点的に指導していく。
	A 4 教職員は、分かる授業や生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】肯定的回答80%	深い学びに結び付く授業を実践するため、育てたい力を明確にし、ICTの活用や言語活動の充実を図る。	B	【達成状況】保護者は78.7%ではあるが、昨年度に続き少しずつ向上している。保護者以外は80%を越え、生徒の肯定回答も向上している。 【次年度の方針】授業力を高める研修を行うとともに、学習だよりを活用して授業の様子を紹介するなど保護者に発信する。
	A 5 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】肯定的回答80%	いじめに関する道徳の授業を全クラスで実施し、人権教育の観点から「言葉」の指導を日常的に行っていくなど、日頃からいじめにつながる言動に対し、敏感に、かつスピード感をもって対応していく。	B	【達成状況】生徒の肯定的回答が92.8%に対し、保護者の肯定的回答が前年比6.4%増加し、75.6%となり、80%に近づきつつある。教職員のいじめへの取組が保護者にも理解されつつある状況であると思われる。 【次年度の方針】 ・教育相談部会や生徒指導部会において、情報交換を密にし、生徒の些細な変化を見逃さないようにする。 ・教育相談週間やスタンダードダイアリー・学校生活アンケート等を通して、生徒の状況を把握し、必要に応じて保護者とも連携しながら引き続きいじめの未然防止に努めていく。

A 6 日課、授業、学校行事などの教育課程は、適切に実施されている 【数値指標】肯定的回答 80%	教育課程の適切な実施に向け、校内の行事を調整し、各種便りや通知で計画を広く周知する。授業交換を積極的に行い、授業時数の確保に努める。	B 【達成状況】教職員のみ若干肯定的な割合が低下したが、全ての回答者で 90%を超えた。保護者も 98%と高評価であった。授業実施時数も十分に確保できた。 【次年度の方針】今後も、学校の特色を生かした教育課程編成と授業時数確保に努める。さらなる行事内容の精選、反省をうまく生かせるような工夫をする。
A 7 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われ、開かれた学校づくりが進められている。 【数値指標】肯定的回答 80%	学校からの各種便りを積極的に発行し、ホームページの更新に努め、情報を発信する。また、総合的な学習の時間やボランティア活動において、地域人材と連携した体験活動を実践し、学校と地域の相互理解を深める。	B 【達成状況】全ての回答者で若干肯定的な割合が低下したが、全て 90%を超える好評価を得た。オープンスクールや学校行事への保護者・地域住民の参加も多く、開かれた学校づくりが進んだ。 【次年度の方針】各種便りやウェブサイトの内容を一層工夫し、学校からの情報提供に努めていく。
A 8 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った地域の学校づくりが推進されている。 【数値指標】肯定的回答 80%	地域協議会の事業や活動を P T A や保護者会等で報告し、ボランティア活動の理解と推進を図り、地域の教育資源の活用を進める。	B 【達成状況】全ての回答者で 80%を超える高評価を得た。図書・花壇整備のボランティアなど、地域人材を活用した。 【次年度の方針】生徒のボランティア活動も含め、地域と連携した活動やその趣旨等について、丁寧に説明していくとともに、アピールの方法を工夫する。
A 9 校内は、学習にふさわしい環境となっている。 【数値指標】肯定的回答 80%	校内の環境美化のために、地域の教育力を活用し、生徒とともに美化活動を行う。また、清掃活動の充実を図る。	B 【達成状況】教師は 60.0%と特に低いが、それ以外は 80%以上である。教材の管理スペースの不足などの原因もある。今年度新たに生徒会で清掃ボランティアを行うなども行った。 【次年度の方針】生徒が主体となり地域ボランティアの方と協力して美化活動に取り組む。各清掃分担場所の人数を配慮し、清掃がしやすくする。
A 10 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】肯定的回答 80%	<u>小中一貫の日を有効活用し、積極的に部会運営を行い、小中が連携して地域学校園の教育ビジョンの具現化に努める。</u>	B 【達成状況】保護者・地域住民では 90%を超える高評価であったが、教職員 80%台、生徒は 70%にとどまった。 【次年度の方針】小学校職員と中学校職員がより連携し、内容についての生徒への周知が不足していると思われる。アンケートの時に内容を説明したり、朝会で PR したりするなど周知の方法を検討する。(継続)
A 11 多様な専門性を有する学校スタッフの活用により、教員の業務が縮減されている。 【数値指標】肯定的回答 80%	外部指導者の有する専門的技能の発揮により、教職員の部活動指導の軽減を図る。 S C や M S , S S W などの専門的知識や経験を生徒理解に活用することで、教職員の生徒への指導の軽減を図る。	B 【達成状況】本項目は、教職員のみ評価項目だが、40%と評価は低い。S C や M S , S S W などの専門的知識や経験が生徒理解に活用されているが、教員の負担軽減にまでは至っていない。特に部活動に関しては、業務の縮減に結び付いていない。 【次年度の方針】必要に応じて、外部指導者の更なる確保に努める。 S C や M S , S S W と連携を更に深め、生徒理解に活用することで、教職員の生徒への指導の軽減を実感させる。
A 12 教員は多様な専門性を有する学校スタッフと円満なコミュニケーションが図れている。 【数値指標】肯定的回答 80%	多様な専門性を有する学校スタッフと、情報の交換及び共有、指導の方向性を揃えるなど連携を強め、指導に生かす。	B 【達成状況】本項目は、教職員のみ評価項目だが、63.6%と数値指標に届いていない。 【次年度の方針】A 11 と連動する形なので、連携強化により、生徒理解及び支援のための共通認識をしっかりと持てるようにする。
B 1 <u>教職員は、あいさつや対応が丁寧で誠実である。</u> 【数値指標】肯定的回答 80%	<u>誰に対しても気持ちのよいあいさつを教職員自らが率先して行うとともに、相手の立場や気持ちになって、誠実に接するよう努める。</u>	B 【達成状況】教職員・地域住民・生徒では 90%を超える高評価であった、特に地域住民・生徒では 5%以上肯定的な割合が上昇した。 【次年度の方針】今後も、教職員の生徒・保護者・地域住民に関わっていく意識を高めていく。

教育活動の状況	B 2	生徒・教職員は時間を守り時間を大切にしている。 【数値指標】肯定的回答 80%	朝の読書活動から日課時間を守り、チャイムとともに授業が進められるように教職員が生徒の手本となって時間を守った行動をとるようにする。	【達成状況】教職員の肯定的回答が 88.9%、生徒の肯定的回答が 90.0%であり、時間を意識した生活ができていてと考えてよいと思われる。ただ、年間を通して部活動終了時刻が徹底されていない時もあるのも事実である。 【次年度の方針】 B ・2525運動の継続とともに、教師自身もチャイムで授業を開始し、生徒の時間に関する意識を高めていくよう指導していく。 ・部活動の活動日の適切な設定や終了時間を守っての活動などを徹底するよう共通理解を図り実施していく。
		B 3 学校全体で、教職員一人一人の指導力向上に努めている。 【数値指標】肯定的回答 80%	指導力の向上を目指した研究プロジェクトに取り組み、全ての教科の校内授業研究会等を実施するとともに、校外での研修を指導に生かし授業力の向上を図る。	【達成状況】すべての回答者で 80%以上であるが、教職員の回答が昨年度より、12.2%下がっている。 B 【次年度の方針】教科部会や授業研究会を通し、授業力を向上させる取り組みを継続して行う。
	生活	A 13 <u>生徒は、進んであいさつをしている。</u> 【数値指標】 肯定的回答 80%	<u>あいさつ運動の推進を掲げる生徒会活動を活性化させ、生徒同士がすすんであいさつが出来るように支援する。</u> 月ごとに生活委員会とともに全教職員が通学路で「あいさつ運動」を行い、校内でも教職員からすすんであいさつを行うようにする。	【達成状況】教職員の肯定的回答が 93.3%、生徒の肯定的回答が 95.3%といずれも高い数値になっており、あいさつがきちんとできているといえる。 B 【次年度の方針】 ・あいさつ運動の日のみの活動で終わらせず、校内、校外を問わず、日常的にあいさつができるよう教師からも率先して声かけをしていくことを継続していく。 ・生徒会執行部や生徒会生活委員会であいさつの活性化に向けたポスター制作や全体朝会での呼びかけなども積極的に行っていくようにする。
		A 14 <u>生徒は、正しい言葉づかいをしている。</u> 【数値指標】 肯定的回答 80%	<u>時と場に応じた言葉づかいについて全教職員が様々な場面で機を逃さず指導を行う。</u>	【達成状況】教職員の肯定的回答は 86.7%、と前年度を 1.5 ポイント下回った。生徒の肯定的回答は 89.0%と前年度を 3.8 ポイント上回った。両方で若干とらえ方に差が見られる。 B 【次年度の方針】 ・授業や日常生活の中で、生徒と教員間での敬語を使った正しい言葉遣いや、地域社会に出た時の大人との会話での言葉遣いなどを指導していくとともに、十分意識した生活をさせていく。
		B 4 教職員は、一貫性・公平性のある生徒指導を基にして、生徒の規範意識を高めている。 【数値指標】 肯定的回答 80%	生徒指導部会を中心に、生徒一人ひとりの状況に配慮しながら段階的な粘り強い生徒指導を推進する。また、全校体制で積極的な生徒指導を実践するために、部会記録を回覧し、生徒の共通理解を図る。	【達成状況】教職員の肯定的回答が前年度を 12.9 ポイント下回っているが、保護者や地域住民・生徒の肯定的回答はいずれも 8 割を超えている。 B 【次年度の方針】 ・各学年や学校全体で生徒指導に関して共通理解を十分に行うとともに、生徒会活動等とも連携しながら、生徒の規範意識を更に醸成するような積極的な生徒指導を展開していく。
	健康・体力	A 15 生徒は、進んで運動する習慣を身に付けている。 【数値指標】 肯定的回答 80%	学校行事の練習だけでなく、生徒会専門委員会の積極的な取り組みから、運動する習慣を身に付けさせるようにする。また、冬場、グランドコンディションが悪いときは、昼休みに体育館を開放し、運動の機会を確保する。	【達成状況】肯定的回答が高い割合を占め、教職員の運動に関する評価も昨年度に比し向上した。「運動する習慣を今後も継続してほしい」という期待感が、教職員の中で高いように思われる。 B 【次年度の方針】休み時間にボールを使用すると校庭が狭く危険性があるため、運動器具等の工夫により運動に親しみ、チャレンジする機会を多くもつようにする。

		A16 生徒は、栄養のバランスを考えて食事をしている。 【数値指標】 肯定的回答80%	家庭科や保健、学級活動の授業を通し、食育がねらいとする食事の重要性、食文化等の知識や食品選択能力を身に付けさせるとともに、日常の給食指導を通して、配膳の工夫や食事マナー等を習得させるなど食育の推進を図る。 「給食献立表」や「食育だより」を配付し、バランスのとれた食生活の大切さを理解させる。	B 【達成状況】教職員の肯定的回答が65.9%と低いですが、昨年度よりは向上している。このことは給食の残量等を見ての回答だと思われるが、中には好き嫌いがあっても一生懸命に食べようとしている学級もある。 【次年度の方針】野菜の食べ残しが目立ったので、野菜の調理法や味付けなどを工夫することで給食時の残量を減らしたい。また、生徒会給食委員会でも、牛乳等の残量削減の呼びかけを継続したい。
		B5 授業や部活動などで一人一人が課題を持って体力の向上に取り組んでいる。 【数値指標】 肯定的回答80%	体力向上に向けた研究を行い、体育科を中心に、繰り返し継続して行う学校全体の体力向上計画を作り、年間を通して実施する。また、<u>全校体制で、投力の育成や一人一人の課題解決を保健体育の授業や部活動において促す。</u>	B 【達成状況】本年度も、かなり高い肯定的回答であり、教職員の生徒に対する達成状況の割合も昨年度と比べると、上がっている。引き続き、“運動熱”向上を目指し、部活動・保健体育科両面から啓発したい。 【次年度の方針】オリンピック東京大会を契機に、スポーツの醍醐味や面白さを様々な機会に啓発したい。保健体育の授業でも、引き続き「投力」の向上をめざし、運動の大切さを理解させたい。
	学 習	A17 生徒は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 肯定的回答80%	主体的な学びを促す教材教具の開発や導入に努め、意欲的に学習に取り組める授業を展開する。	B 【達成状況】全て80%を達成している。保護者と生徒の回答が向上している。 【次年度の方針】教材・教具を工夫したり、アクティブ・ラーニングの手法を取り入れたりして、生徒の興味・関心を高める。
		A18 生徒は、落ち着いて学習に取り組んでいる。 【数値指標】 肯定的回答80%	学習の約束（チャイム前着席・始業時のあいさつ・学習態度・発表の仕方・ノートのまとめ方）など教科共通の学び方や教科特有の学び方を身に付けさせる。	B 【達成状況】すべての回答者が80%以上である。昨年度に比べ、生徒回答は8%向上した。昨年に続き、チャイム着席は意識付けができています。 【次年度の方針】チャイム着席はもとより、「学習の約束」にあるあいさつや発表の仕方などの指導にも力を入れていく。
		B6 学習の目的やねらいがわかり、自ら進んで考え発言している。 【数値指標】 肯定的回答80%	学習のねらいや育てたい力を明確にして、指導と評価を一体化させた授業を展開する。	B 【達成状況】保護者73.9%以外は80%を達成している。 【次年度の方針】授業の中で、生徒がじっくり考える時間を多くとるとともに、自分の意見や考えを発表する機会を増やす。
	ボ ラ ン テ ィ ア 活 動	A19 生徒は、地域でのボランティア活動や行事に参加している。 【数値指標】 肯定的回答80%	<u>学校が地域との連携を強め、生徒が地域に目を向ける機会を増やすとともに、地域の諸活動に対する望ましい参加の在り方について、考えを深めさせる。</u>	B 【達成状況】地域住民は93.3%であるが、生徒67.9%、保護者64.7%と低い数値が出ている。 【次年度の方針】生徒のボランティア活動自体は年々増加する傾向にあり、盛んに行われていると考える。参加が特定の生徒に偏らないよう、地域行事や地域ボランティアへの呼びかけを継続して行っていく。
	本 校 の 特 色 ・ 課 題 等	B7 総合的な学習等において、自らの課題が設定され、地域をフィールドにした調査研究活動が行われている。 【数値指標】 肯定的回答80%	地域をフィールドにした調査研究活動が意欲的に行われるよう、発達の段階に応じた生徒の興味・関心に基づく適切な課題を設定し、追究させる。	B 【達成状況】教職員75.6%生徒96.6%と大きな差が出た。生徒回答率の高さは、各学年で設定した課題に対して、生徒が十分に達成感を味わえる取り組みができたためと思われる。 【次年度の方針】意欲的に取り組んでいる生徒の様子や学習の成果を各種便り等で保護者や学校全体に知らせる広報活動を積極的に行う。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- (1) 全ての評価者が全般的に肯定的な評価をしている。また、多くの評価項目で、昨年度に比べて今年度の肯定的評価が増加しており、本校の取組は妥当であった評価できる。
- (2) 生徒たちは明るく、充実した学校生活を送っている。あいさつや言葉遣いもほとんどの生徒が適切に行うことができる。日常の授業や体育祭・学習発表会などの学校行事にも主体的に取り組み、成果を上げている。部活動でも好成績を挙げている部が多い。
- (3) 保護者による評価では、いじめ対応や教科指導について、他と比較して肯定的回答の割合が低いが、昨年度に比べて肯定的評価がかなり増加した。学校全体での継続した取り組みで、さらに充実を図りたい。
- (4) ○小中一貫教育については、生徒の評価のみ低いものになっている。今後、小中一貫教育について生徒に理解を深めさせ、より身近なものとなるよう指導・支援を行う。
- (5) ○地域学校園の各小学校との連携強化を図りながら、9か年を見通した指導計画を作成し、小中一貫教育を推し進め、星が丘地域学校園教育ビジョン「未来を見つめ、学び続ける力の育成」に努めたい。
- (6) 本校生徒の授業への取り組み方はやや消極的で、改善が望まれるとの指摘もあった。生徒が落ち着きかつ活発に話し合う学習活動や積極的な発表等で主体的に授業に臨める学習形態の確立など、教職員一人一人がスキルアップ研修を重ね、授業力の向上を目指す。
- (7) 各種便りの積極的な発行や、ホームページの更新に努めるなど、各種広報活動を充実させた。保護者や地域への情報発信にさらに努め、開かれた学校づくりを推し進めたい。
- (8) 地域の方からの評価はたいへん肯定的なものであった。これからも地域の方々から信頼され応援して頂ける学校づくりを推進したい。

6 学校関係者評価

- (1) 学校に活気が感じられる。運動部のみならず文化部の活躍も星が丘中の特色となっている。
- (2) 生徒の校内でのあいさつやきちんとした生活態度は評価できる。学校から一歩離れ地域に出たときにも元気なあいさつができるとさらによい。
- (3) 星中生の多方面にわたるボランティア活動はたいへん活発であり、地域としてもありがたい。今後より多くの生徒にボランティアの機会を与えてほしい。
- (4) 特色ある学校づくりの推進や教職員の業務縮減の一助のためにも、広く人材を確保することが望まれる。
- (5) 生徒の登下校の安全確保という視点からも環境点検をさらに推し進めて、改善を要する点等を関係機関に積極的に発信してほしい。
- (6) いじめ対策の公表と熱心な取り組みについては、保護者の肯定的評価が昨年度より上昇したが、他の回答に比べて低い。保護者も関心が高く学校への期待も大きいと考えられる。全教職員の継続した指導や対応が望まれる。
- (7) 教職員の評価から給食の残量の多さが課題である。生徒にしっかりと知識を持たせ健康を維持し体作りを行わせるためにも、食育をさらに充実させてほしい。

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- (1) ○星が丘地域学校園教育ビジョンである「**未来を見つめ、学び続ける力の育成**」のために、自己肯定感の高揚をキーワードに学区内小学校との連携をより一層強化し、その実現を目指す。
- (2) 学力の向上については、学習習慣の定着を図る取組を継続させるとともに、学力向上プロジェクトにおいて教員が学校課題に積極的に取り組み授業力の研鑽、向上に繋がる研修会を実施する。
- (3) ○小中一貫教育を推進するために、小中の各部会の連携を深め、小中間での指導法の研究や教科の関連をさらに検討していく。
- (4) ○社会性を身に付け、地域社会に貢献できる人間の育成を目指し、教科となる道徳の時間を中心に全教育活動の中で実施される道徳教育を意図的・計画的・横断的に行う。さらに、小中9か年の星が丘地域学校園の指導計画に基づいて、道徳的实践力の涵養を図る。
- (5) 健やかな体を育成するために、保健体育の授業を中心に教育課程内及び部活動を通して計画的・継続的に指導を行う。また、給食指導や特別活動等で、食の大切さを考えさせる食育や安全確保のための避難訓練を通して、健康・安全についての知識や技能を身に付けさせる。